

サンスター株式会社 御中

ナース専科 × キャンサーリボンス × サンスター

がん患者さんのQOL向上のために、
歯科と連携した口腔ケアを学ぼう！

【看護師は他職種をつなぐコーディネーター】

～質の高い支持療法実践に向けて医科歯科連携すべきこと～PART2

開催報告書

2016年1月30日(土)開催

がん患者さんのQOL向上のために、歯科と連携した口腔ケアを学ぼう！

【看護師は多職種をつなぐコーディネーター】

一質の高い支持療法実践に向けて医科歯科連携すべきことー

主催:ナース専科 協力:NPO法人キャンサーリボنز 協賛:サンスター株式会社

開催日時:2016年1月30日(土)10:00~16:00

10:05~10:45 講義1 口から始まるがんの支持療法~医科歯科連携の有効活用~

講師:百合草健圭志先生

静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科 部長

10:55~11:55 講義2 がん治療を支える口腔ケア ~看護師ができること~

講師:妻木浩美先生

静岡県立静岡がんセンター 看護師長 摂食・嚥下障害看護認定看護師

11:55~12:05 製品紹介 河原木美咲様 サンスター株式会社 歯科衛生士

12:05~13:00 昼食・休憩

13:00~14:00 実技 すべての基本となる口腔衛生教育 ~がん患者さんに指導すべきセルフケアについて~

講師:辻本好恵先生 サンスター株式会社 歯科衛生士

14:15~16:00 事例報告 病院と院外歯科医院との医科歯科連携 ~兵庫県立粒子線医療センターの事例~

①医科歯科連携の流れと実際の運用について

講師:出水祐介先生

兵庫県立粒子線医療センター 医療部長

②医科歯科連携の中での看護師の役割

講師:藤本美生先生

兵庫県立粒子線医療センター看護部 がん看護専門看護師

③病院と院外歯科医院で行う医科歯科連携 ~5年経過して~

講師:宗行 彩先生

宗行第二歯科医院 副院長

質疑応答 (16時終了)

【実施報告】

■募集告知：WEBサイト ナース専科掲載、メールマガジン告知、告知チラシの病院・訪問看護ステーション・歯科医院への配布、前回参加者へのメール告知

■開催場所：東京都港区芝2-11-1 住友不動産芝公園タワー 18F
株式会社エス・エム・エス本社 セミナールーム

■参加者：計49名
看護師35名 歯科衛生士7名 看護学校教員2名 歯科医1名 歯科大学短大非常勤講師1名 不明3名

●住友不動産芝公園タワー



●告知チラシ

ここでしか聞けない！ 歯科と連携した口腔ケアのスキル・知識が身につく！

ナース専科 × キャンサーリボンズ × SUNSTAR

**がん患者さんのQOL向上のために、
歯科と連携した口腔ケアを学ぼう！**
【看護師は多職種をつなぐコーディネーター】
～質の高い支持療法実践に向けて医科歯科連携ですべきこと～ PART2

がん患者さんには口腔ケアが必要であることは医師・看護師、歯科医師の中で周知されつつありますが、実践として口腔ケアを周術期に行う徹底はまだ不十分な状態です。今回のセミナーではさらなる口腔ケア普及と、それぞれの役割の明確化に加え、今後具体的に**歯科とどのように連携を組み、治療成績を上げるポイント**を学びます。

開催日 開催地 東京 **1月30日(土)**
株式会社エス・エム・エス本社
(最寄駅：都営地下鉄「芝公園」駅)

開催時間 10:00～16:00 **定員** 80名

講師

百合草 健志志 先生
静岡県立静岡がんセンター
歯科口腔外科 部長

妻木 浩美 先生
静岡市立静岡がんセンター
口腔がん科 看護部長
がん看護学看護認定看護員

辻本 好恵 先生
がんセンター
歯科衛生士

出水 祐介 先生
がんセンター
歯科衛生士

藤本 美生 先生
がんセンター
がん看護学看護認定看護員

宗行 彩 先生
がんセンター
がん看護学看護認定看護員

1 口腔ケアの意義
・口腔管理の意義
・医科歯科連携の「チーム」
・医科歯科連携で歯科が行っていること

2 がん治療を支える口腔ケア～看護師ができること～
・支持療法における看護職の役割
・口腔ケアについての患者教育：患者さんのセルフマネジメント力を高める説明の仕方、必要なツール
・口腔ケアの術前処置と評価の方法
・看護職にできること、求められること

3 すべての基本となる口腔衛生教育
～がん患者さんに指導すべきセルフケアについて～
・がん治療の段階に合わせたセルフケア指導方法とポイント
・セルフケアに使える口腔ケア製品の体験

4 病院と院外歯科医院との医科歯科連携
～兵庫県立がんセンターの事例～
① 医科歯科連携の流れと実際の運用について
② 医科歯科連携の中での看護職の役割
③ 病院と院外歯科医院で行う医科歯科連携 ～5年経過して～

まとめ・質疑応答

※本セミナーは先着順でご案内しております

スマホ/ケータイから簡単お申込み!

東京

FAX/PCからの申込みは本紙裏面をご確認ください

主催：株式会社エス・エム・エス
ナース専科セミナー運営事務局
77-4740120-938-797 (平日10:00～18:00)

参加費 ※資料代含む
ナース専科コミュニティ（登録無料）
からお申し込みの方は、
9,720円 (税込)
（昼食のお弁当は、別途1食1,080円（お弁当/税込）でご利用いただけます。お申込みの際にご用意ください。）

通常参加費
10,800円 (税込)

●セミナールーム



【講義1】口から始まるがんの支持療法 医科歯科連携の有効活用

講師：百合草健圭志 静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科 部長

百合草先生は冒頭で、わが国におけるがん対策の流れと現在進められているがん対策推進基本計画を紹介し、この計画で患者さんと家族の苦痛軽減とQOLの維持・向上が目標の1つとされていることに触れ、緩和ケアと支持療法（副作用対策）が重要であることを示しました。さらに支持療法の中でも、がん治療で多くみられる口腔トラブルに対する歯科介入と医科歯科連携の重要性について言及し、口腔症状を緩和し、がん治療を確実に遂行するためには口腔ケアが必要と訴えました。

また、がん治療中の口腔トラブルの発症後の歯科対応は制限されることが多いため、後手に回ってしまうことが多く、がん治療の流れの中に歯科支持療法を組み込むことを説明し、同センターの院外歯科との連携体制について触れました。当初、静岡県のみでスタートしたものが、現在では「がん診療医科歯科連携事業」に発展し、ほぼ全国規模でがん患者さんの口腔を守る地域連携医療ネットワーク作りが進んでいるそうです。最後に、「がん歯科支持療法においては、有害事象への対処に加え、治療前にいかに口腔環境を整えておくかが重要です。」と、予防的リスク管理の重要性を強調し、口腔環境の整備は治療の完遂を後押しし、口腔ケアの質の向上にもつながると結びました。



【講義2】がん治療を支える口腔ケア ～看護師ができること～

講師：妻木浩美先生 静岡県立静岡がんセンター 看護師長 摂食・嚥下障害看護認定看護師

妻木先生は、看護師が支持療法として口腔ケアを行うにあたり、がん治療に伴う口腔有害事象についての理解がまず必要とし、まず口腔トラブルについて解説しました。看護師の役割は、①口腔有害事象、口腔トラブルのアセスメント、②口腔ケア（セルフケア）への支援、③適切なケアにつなげる調整や情報共有など他職種との連携の3点を挙げ、同センターにおける口腔ケア介入に看護師がどのようにフォローにあたっているかを説明しました。口腔ケアの必要性を理解できない患者さんも多いため、パンフレットなどを用いて繰り返し説明するなどの患者アプローチが大切になります。またセルフケアを支援するための口腔内の観察方法などの患者指導の必要性も話しました。

また、がん治療中の口腔ケアでは、看護師による情報収集と評価が重要と強調し、観察項目や、口腔有害事象スケール、口腔粘膜炎グレード表などを紹介しました。特に評価については、統一した評価方法により共通認識がもてれば、チーム内で対処方法が統一され、患者さんのQOL向上につながります。「適切な判断・評価によりその発症時期が予想できれば、看護師は一歩先を見据えた介入ができます。」と妻木先生は訴え、それが医科歯科連携における看護師の第1の役割であると結びました。



【製品紹介】 河原木 美咲様 サンスター株式会社 歯科衛生士

サンスター(株)河原木様からは、静岡がんセンター、静岡県歯科医師会とがん患者さん向けに共同開発したバトラーSG口腔ケアシリーズの紹介がありました。マウスコンディショナー、ジェルスプレー、スポンジブラシ、歯ブラシ、歯磨き剤について低刺激性と保湿効果に優れた製品特徴や使い方についてわかりやすいご紹介がありました。参加者は、昼の休憩時間に展示コーナーに立ち寄られ、実際にバトラー製品をご覧になったり、積極的に質問する姿が多く見られました。



【実技】 すべての基本となる口腔衛生教育 ～がん患者さんに指導すべきセルフケアについて～

講師： 辻本好恵先生 サンスター株式会社 歯科衛生士

午後は辻本先生の実技から始まりました。

まず、自分の口の中を鏡を使ってよく見ることから始まり、歯茎や舌の状態を観察しました。患者さんにも、ぜひお口の中を観察していただき、適切な歯ブラシを選び、鉛筆持ちで横磨きで全部の歯に歯ブラシをあて、歯と歯の境目をきちんと磨くことが基本と説明がありました。その後、全員がご自身の歯の汚れの染め出しを行い、辻本先生の指導の下、歯ブラシを使って正しい磨き方を実践しました。参加者は丁寧にブラッシングしているつもりでも意外に磨き残しがあることに驚き、正しいブラッシングを学ぶことの大切さを実感していました。次に歯ブラシだけでは落とせない歯の間の汚れは、歯間ブラシやフロスを使って落とすことを体験しました。化学療法中は、歯茎を傷つけることもあるので、専門の歯科衛生士の指導を受けてほしいそうです。

最後は、バトラーマウスコンディショナーと、GUMデンタルリンスを実際に口に含んでいただいて刺激の違いを参加者に体験してもらいました。2品を比べることで、低刺激タイプの口腔へのやさしさを実感し、多くの方から驚きの声が上がりました。



【事例報告】 病院と院外歯科医院との医科歯科連携 ～兵庫県立粒子線医療センターの事例～

①医科歯科連携の流れと実際の運用について

講師：出水祐介先生 兵庫県立粒子線医療センター 医療部長

事例報告では、兵庫県立粒子線医療センターの出水先生が、粒子線治療と医科歯科連携のきっかけについて話しました。放射線の一種である粒子線が周囲の臓器に影響を与えず、X線が効きにくいがんにも有効な場合があるなどの特徴を解説し、全国の病院から紹介患者がやってくる粒子線治療専門病院であると説明しました。同センターの主要疾患である頭頸部がんでは、粒子線照射の妨げとなる金属冠の治療前の処置が必要となります。同センターには歯科・口腔外科がなく、その処置を紹介元病院や患者かかりつけ歯科医院に依頼していましたが、対応がまちまちでした。また遠方の患者さんの場合、再処置は困難になるなど、頭を悩ませていた時、粒子線治療に理解のある宗行第二歯科（以下、宗行歯科）を紹介され、連携をスタートさせることができました。同センターは医科歯科連携システムを始めたことにより、治療準備開始までに確実な歯科処置が可能になり、粒子線治療の精度が向上しました。また治療による急性期口腔粘膜炎も軽減できたとその成果について説明しました。そして連携システムにおける看護師の役割についても触れ、「看護師は連携のハブとして多職種間全ての調整を行います。看護師が疾患や治療、患者背景を理解することで、より高度な連携が可能となります。」とその意義を述べ、講義を終えました。



②医科歯科連携の中での看護師の役割

講師：藤本美生先生 兵庫県立粒子線医療センター 医療連携課長 がん看護専門看護師

同センターで連携システムのハブとなり、調整役を担っている藤本先生は、治療経過ごとの看護師の役割を解説しました。まず治療決定から治療前においては①歯科処置が必要な患者さんの特徴・背景の理解、②看護師の介入が必要な患者さんの予測、③ポイントを押さえた連携での看護師の介入、④具体的な介入方法について説明しました。また治療（照射）中に、看護師により行われる、観察やブラッシング方法の確認、開口訓練指導など具体的に実践しているケアの内容や口腔ケアの日課を紹介しました。この段階で重要なのは、宗行歯科との連携です。病棟では看護師が記入する連携フローシートを活用し、宗行歯科へに日々の口腔ケアを報告します。宗行歯科の訪問診療はその内容を踏まえて実施され、必要であればケア方法を修正します。治療後は、経過観察担当看護師が電話やメールで、患者に問診を行ったり、時には口腔症状の相談を受けるなどの支援を行います。最後に、医科歯科連携の利点として、看護師が連携歯科医院の歯科医師に直接相談できることを挙げ、これにより患者さんも治療後の歯科受診や指示を受け入れやすくなっていることを挙げ、「看護師にとっても、宗行歯科は口腔ケアについて一緒に考えてもらえる心強い存在になっています。」と結びました。



②病院と院外歯科医院で行う医科歯科連携 ～5年経過して～

講師:宗行 彩先生 宗行第二歯科医院 副院長

事例報告の最後は、医科歯科連携により、放射線腫瘍医とかかりつけ歯科医の橋渡しと、週1回同センターへの訪問診療を行っている宗行第二歯科医院(以下、宗行歯科)の宗行先生です。宗行先生は連携を行う上で気をつけていることとして、「よりスムーズな連携ができるように、歯科医師だけでなく受付やアシスタント、歯科衛生士、歯科技工士など当院の全スタッフが、粒子線治療の流れを理解し、患者情報を共有しています。」と述べ、新人スタッフには同センターを見学させるなど、お互いの顔が見える連携を心がけていることを話しました。具体的な連携方法として、粒子線治療開始準備までに行う歯科処置は、センターからかかりつけ歯科医院に直接依頼した場合でも、患者情報を同院に送られ、質問等に対応できるようにしています。また、治療中は病棟看護師と同院で口腔管理を行い、退院後は、再び同院とかかりつけ歯科が情報提供・共有するようにしています。これにより、患者さんへの継続した口腔管理が可能となりました。最後に、「地域歯科医と連携する場合には、①受付やアシスタントも医科歯科連携のスタッフとして認める、②看護師側の窓口を明確にする、③治療上のトラブルやイベントはつど報告し情報を共有することが大切になります。」とし、報告を終えました。

【質疑応答】講師全員

最後に、講師全員への質疑応答がありました。

まず「病院に必要な歯科にするためのアドバイスがほしい」という質問に、百合草先生は「まずは主治医の先生に歯科が必要と感じてもらうことが重要です。主治医が歯科のトラブルに巻き込まれた時がチャンス。歯科に診てもらうことで、口腔状態も良くなって患者さんに喜んでもらえると、次回からは歯科を必要としてもらえるので、できるだけ診てあげるようにしています。このように人と人とのつながりやコミュニケーションが重要なのです」と話しました。出水先生は「自分が困ったからこそ回りに相談し、宗行先生というパートナーが見つかったのです」と続けました。また宗行先生は、「医科歯科連携がなかなか進まない」という質問に対して、「最近市や町レベルの歯科医師会も変化してきて、連携しようという動きが出てきているので今後変化していくと思います」と話しました。「スタッフが口腔ケアの重要性を理解していない、レベルもバラバラで困っている」という質問には、妻木先生が「誰か一人、口火を切ってくれる人がいてくれると良いです。専門コース教育を受けた看護師が自分の部門で伝達して広めるような方法もあります」とアドバイスしました。藤本先生は、「やってみようという人で仲間を作って口腔ケアをやり始めたり、どこかの事例をまねてみるというのも近道だと思います。また1人の患者さんから取り組んでみて、その結果を共有するやり方も良いのでは」と答えました。医師、看護師、歯科医師の立場から様々は質問にお答えいただき、大変内容の濃い質疑応答になりました。

